

事業計画書

平成22年度
(2010年)

自 平成22年4月 1日
至 平成23年3月31日

平成22年度事業計画概要

(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1. 今年度は第2次5ヶ年計画の3年目となるが、引き続き着実な計画の実施を目指す。

以下に第2次5ヶ年計画の重点項目を記す。

①連盟事業の改善

(a) 健全な財務体質の実現 (企画委員会・事務局)

(b) 業務の効率化、質の向上 (事務局)

②競技会関連サービスの向上

(a) 競技会場の環境改善 (センターサービス向上委員会)

(b) 魅力ある競技会の開発 (競技会事業部・普及事業部)

③戦略的普及活動の推進 (普及事業部)

(a) 地方大都市圏の活性化

(b) 普及システムの強化

④国際事業の活性化

(a) P A B F大会の開催 (国際交流事業部)

(b) マインドスポーツ普及活動の支援 (普及事業部・国際交流事業部)

2. 以下、重点項目を中心として今年度事業計画の概要を述べるが詳細は事業別の計画を参照願いたい。

(1)連盟事業の改善

第2次5ヶ年計画では期間中の収支均衡を目標としている。これを実現するために普及活動の継続により会員・会友数の継続的増加を図るとともに、魅力ある競技会の開発を行い、競技会参加者数の増加に努める。

事務局業務については、担当業務の継続的な見直し及び必要に応じ、外部のマンパワーを活用することにより効率的な運営を行う。新規職員の採用も検討する。

(2)普及事業部

第2次5ヶ年計画3年目となる2010年度普及事業は、上記目標の実現に向けて推進する年と位置付け、下記に重点をおいた事業を展開する。

魅力ある競技会の開発

初心者向け競技会の開催／奨励／支援を全国的に拡大するとともに、地方B Cと連携して地方／首都圏双方で育成中の初心者が双方の競技会に参加する機会を設け、初心者プレイヤーの継続意欲上昇、競技会参加プレイヤーの増加につなげる。

戦略的な普及活動の展開

1) 地方大都市圏の活性化

基礎調査に基づいて戦略的ターゲット地域の選定した関西地方の活性化を軸に、他の大都市圏においても将来の基盤作りのための普及活動を積極的に展開していく。

2) 普及システムの強化

「普及ネット」立ち上げ2年目の本年は、普及システム基盤のさらなる強化と拡大のため参加メンバー（ブリッジインストラクター）数の増加を目標に据える。

国際事業の活性化

1) 2012 P A B F コングレス福岡大会広報活動の本格的開始

海外・国内双方の参加者を募るため特設ウェブサイトの製作を開始、本年度中に開設予定。

2) マインドスポーツ普及活動の支援

チェス、囲碁に続き、ブリッジの社会的認知度・信用度・普及力を決定的に向上させる JOC への加盟を最終的目標に置き、他マインドスポーツ団体とのジョイント活動を継続して行なう。「伝統文化と評される囲碁や将棋と肩を並べて社会生活に寄与するマインドスポーツ」のイメージをブリッジ・ブランドに加えることで、他業界とのタイアップ事業の増加など、普及のための裾野拡大をはかっていく。また、JOC が橋渡しを行う世界大学スポーツ連盟主催「世界大学ブリッジ選手権大会」に代表チームを派遣するが、併せて JOC 内部でのマインドスポーツ・ブリッジの認知度を高めていただくための広報活動展開の機会としていく。

ジュニア・ユース・シニア層への普及活動

ジュニア層・ユース層・シニア層をターゲットとした普及活動をさらに効果的に行うため、各層のインターネット・ポータルサイト活用も視野に入れた広報活動を展開していく。

(3) 競技会事業部

魅力ある競技会の開発

過去の競技会参加者の動向を分析し、普及事業部とも協力して魅力ある競技会の開発を目指す。魅力ある競技会を開催することで競技会参加者の増加、それに伴う競技会収入増を図り、健全な財務体質の実現に貢献する。

競技会の環境改善

第2次5ヶ年計画に盛り込まれた競技会場の環境改善について、センターサービス向上委員会を中心に、ブリッジセンターおよび常設ブリッジクラブでの参加者の利便性、快適性の向上を目指す。今年度はガイドラインを作成、配布し、その内容の実施を確認する。

スコア入力端末の導入

2011年2月開催の NEC ブリッジフェスティバルを目標に、スコア入力端末の Bridgemate II を導入し、スコア入力の労力を削減し、ディレクターの競技会運営について質的向上を図る。

競技会運営ソフト（JTOS）の保守およびバージョンアップ

2009年12月にリリースしたバージョン2.8の保守を進め、さらに機能を向上させたバージョンを配布する。また、上記スコア入力端末導入に伴うJTOSの改造を行う。

ディレクター育成

昨年度に引き続きナショナルディレクターの養成を図る。また、前年に引き続きクラブディレクター育成のための講習会、実地研修などを実施する。

(4)国際交流事業部及びその他の事業

本年度は、フィラデルフィアで開催される世界ブリッジ連合総会及び第47回PABF選手権（ハミルトン、ニュージーランド）への代表派遣、世界同時大会とPABF同時大会への参加、NECブリッジフェスティバルの開催等を通して例年通り国際親善と交流を図る。また、2012年のPABFコンGRESS福岡大会の実現に向けて、九州支部と連携して大会の開催準備作業を実施する。

さらに、国際的には既にスポーツとして認知されているブリッジを国内でも同様の立場に高めるため、日本棋院（国際囲碁連盟）、日本ペア碁協会、日本チェス協会と提携、協力して囲碁、チェスの大会でのブリッジの紹介や競技会の共催等の活動を行う。

20年後、30年後も老若を問わずブリッジを楽しめる環境作りのため、会員・会友の皆様のご支援とご提言をお願いしたい。

普及事業部

I. 事業の概況

普及部会 【8,453 千円】

1. イベントへの参加、体験教室・講習会の開催支援、地方ブリッジの活性化支援、会員の獲得および定着化活動、会員サービス活動、人材育成、現場に直結した普及システムの強化など、本年度は下記事業を実施する。

(1) 第25回国民文化祭おかやま 2010 (444 千円)

地元ブリッジ同好会に協力を依頼し、体験教室や展示を通してブリッジの持つ文化面・教育面・コミュニケーション促進面などの意義をアピールする機会とする。

会 期：2010年11月6日～7日（2日間）

会 場：岡山県総合グラウンド（桃太郎アリーナ）

事業内容： ①ミニブリッジ体験教室、練習サロン
②パネル、カード及びブリッジが登場する小説等ブリッジ関連資料の展示
③各種PCソフトウェア紹介とプロモーションビデオ放映

(2) NECブリッジフェスティバル体験教室 (702 千円)

国内最大のブリッジ普及イベントと位置付け、ブリッジ未経験者を対象にした「体験教室」、基礎を習得したばかりの初心者プレイヤーが競技ブリッジの面白さを体験する「初心者ゲーム大会」をメインに開催する。また、NECの社会貢献活動の一環であることから「社会に役立つブリッジ＝脳の働きを活性化するマインドスポーツ」をアピールするプログラムをマインドスポーツ仲間の囲碁、チェス、チェッカー、シャンチー各競技団体とのコラボレーションで展開し、愛好者の拡大をはかる。また、全国的に初心者育成の励みになるよう、地方BC推薦の初心者ペア数組を初心者ゲーム大会に招待する新規企画を実施する。

会 期：2011年2月11日～12日（2日間）

会 場：パシフィコ横浜会議センター（神奈川県横浜市）

事業内容： ①ミニブリッジ体験教室、初心者ゲーム大会「デビュタント杯／ビギナーズ杯」
②チェス、囲碁など、他のマインドスポーツ種目の体験コーナー、体験ラリー、など
③パネル展示、プロモーションビデオ放映

(3) 「ブリッジを愉しむ会」 (730 千円／参加料収入予測 560 千円)

年4回、日頃ブリッジをプレイする機会が少ないプレイヤー諸氏が交流を愉しむ場として企画。

(4) ブリッジ・インストラクター講習会 (62 千円)

ミニブリッジから入るブリッジ指導法講習会。ミニブリッジ指導法が全国的に浸透したこと、および指導法説明ツールが整備され、ウェブサイトからダウンロードできるようになったことなどから、遠隔地で1箇所開催と想定。

(5) 体験教室・講習会への助成 (2,440 千円)

体験教室・入門講習会を開催してブリッジ愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を行い、開催場所・回数増をはかる。また、通常カルチャースクール講座では支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座開催を支援する。

(6) カルチャースクール講師助成 (500 千円)

ブリッジを広めるにあたって特に重要と普及事業部が判断した地域のカルチャースクール入門講座において当初の受講者数が少数でも、カルチャー側・講師側双方に開講する意欲があり、受講者数増加が見込まれる場合、講師料を助成する。

2. 地方活性化支援活動 (1,614 千円) ※旧「地方への普及活動」

第2次5ヶ年計画の重点目標である「地方大都市圏の活性化」事業を、ターゲット地域に選定された関西地

方を軸に他の大都市圏に於いてもさまざまな形で展開するとともに、全国規模で地方ブリッジの活性化と会員数増加のために必要な支援を行う。特に初心者プレイヤーが楽しんで継続できる環境づくりを行う地方BCに対し積極的に協力、支援する。

- (1) 地方BC・同好会による普及イベント出展など、普及活動を支援する。
- (2) 地方BC主催競技会において体験教室、初心者大会の併催を奨励し、講師派遣、広報活動支援など、地元が必要とする支援を行う。
- (3) 地方BCが育成する初心者プレイヤーのNECブリッジフェスティバル初心者大会への参加を助成する。

3. 海外クラブへの支援 (30千円)

海外各地のクラブ・同好会と情報を共有しながらメンバーの定着、増加のために地元が必要とする支援を行う。また、赴任者・帰国者へのプレイ場所紹介など細かいサービスを行い、相互活性化につなげる。

4. 会員サービス活動「全国ブリッジ 巡ってBINGO」(300千円)

5つの地方の競技会に参加して「ビンゴ」を達成した会員にビンゴ賞、8地区制覇賞、などインセンティブを進呈、全国レベルで地方競技会の活性化と会員の相互交流促進を目的とした会員サービス企画の2年目(3年間の時限企画)。期間中の全ビンゴ賞獲得者の中から抽選で3名を2012年PABFコンGRESS福岡大会サイドゲームに招待。

5. 会員獲得および定着活動 (1,172千円) ※旧「新入会友の獲得」

会員の獲得・定着を目的に、「新入会・再入会キャンペーン」「会員紹介キャンペーン」といったキャンペーン活動、普及事業部主催初心者大会(ビギナーズ杯)の開催など、賞品を含め魅力ある新人戦を企画立案し、実施する。

6. 「普及ネット」プロジェクト (459千円)

普及システム強化の基盤となる「普及ネット」の運営管理事業の2年目。全国の「普及活動に関わる／関心を持っている」会員(呼称：ブリッジインストラクター)同士および普及事業部とで迅速に普及情報を共有し、双方がより活動しやすい環境をつくることで普及力の強化をめざす。本年度は、ブリッジインストラクターの増加と情報ツール「普及通信」のより一層の充実化を目標とする。

[事業内容]

- (1) 情報共有メディア「普及通信」WEB版の定期更新
- (2) インターネットを使用しない人への「普及通信」郵送
- (3) 「ブリッジインストラクター」登録証発行

教育部会 【2,065千円】

若年層に対するブリッジの認知度拡大をはかり、教育現場におけるブリッジ普及活動を活性化させることを目的に、本年度は次の事業を行なう。

1. 東京大学ブリッジ講座支援 (680千円)

全国の教育現場を始め、社会におけるブリッジの認知度・信頼度向上に貢献して5年目を迎える東京大学教養学部全学体験ゼミナール「考える力を養う～コントラクトブリッジ」授業(2単位。前期/後期 各13回授業)を支援する。

2. 早稲田大学ブリッジ講座支援 (1,200千円)

早稲田大学メディアネットワークセンターに提携講座として設置したブリッジ講座「コントラクトブリッジで学ぶ数理学入門～論理的思考力を身につけよう」(2単位。前期/後期各15回)を支援する。

➤ オープン科目として、学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学、東京家政大学学生、関連高校生の履修も可能。

3. 学校ブリッジ講師養成/助成 (40千円)

教育現場によって、校風/ブリッジ授業へ期待する内容などは異なるため、講師派遣要請を受けた時点で

ニーズに応じて適切に指導できる講師を養成する。

4. ブリッジ授業拡大活動 (144千円)

東京大学、早稲田大学に続く新教育現場でのブリッジ正規授業、課外授業の採用を働きかける事業。遠隔地1校、近距離2校を想定して予算計上。

ユース部会 【7,472千円】

将来のブリッジ界を背負う若年層プレイヤーを増やすため、本年度は以下の事業を行なう。

1. 青少年対象イベントへの参加 (121千円)

教育関連機関(文部科学省・教育委員会・学校・PTA等)／行政機関(都道府県・市町村等)／その他青少年を対象とするイベントで体験教室を開催し、ブリッジの認知度・信頼度の向上をはかる。

2. 現役ユースへの支援

現ユース・ジュニア会友がブリッジを通して心身・勉学ともにバランスの取れた健全な成長をしていくことを最優先におきながら、若年層プレイヤーの育成と底辺拡大をめざす。大学や高校のクラブへの支援、学生が運営する学生リーグへの支援、意欲ある若年層プレイヤーのための強化プログラムなどの技術向上支援、および日本代表としての海外遠征機会の提供・助成を行い、若年層がブリッジを継続できる環境を整備する。

(1) 新入部員獲得活動支援 (165千円)

学生・OBからの要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動などを支援し、若年層プレイヤーの底辺拡大の一助とする。

(2) 学生合宿の支援 (398千円)

学生リーグ主催の夏季・春季合宿／学生選手権にブリッジを始めたばかりの学生の参加を促すため、ブリッジ1年目の学生の宿泊費・交通費の一部を助成する。また、要望があった場合は講師・アシスタントを派遣する。

(3) ユースキャンプ (408千円) ※新規事業

会期：2010年9月8日～10日(3日間)

場所：高尾の森わくわくビレッジ(八王子市)

内容：全国の学生を対象にしたJCB L主催のブリッジキャンプ。各大学の新一年生や高校生、現役学生プレイヤー同士の交流、技術向上、さらには代表候補への登録者数増加を目的とする。一般にオープンなキャンプとし、JCB Lおよび各大学ブリッジのウェブサイトでも告知して参加を募ることとする。学生18名+講師1名を想定。

3. ユース・スクール代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣

(1) 第46回PABF選手権大会へ2チーム(ジュニア/ヤングスター)派遣 (2,423千円)

会期：2010年5月22日～30日(9日間)

開催地：ニュージーランド、ハミルトン

内容：26歳未満(U26)のジュニアチーム6名、21歳未満(U21)のヤングスターチーム6名、計12名の選手、NPC1名の派遣に伴う航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代などを助成。

*特筆事項：グレード1の国際試合のため、各選手は1人当たり3万円を自己負担する。

(2) 世界ユースチーム選手権への派遣 (1,344千円)

会期：2010年10月10日～16日(7日間)

開催地：アメリカ、フィラデルフィア

内容：2009年PABF選手権マカオ大会でゾーン代表権を獲得したジュニア(U26)チーム6名、NPC1名を派遣。航空運賃、宿泊費、海外保険料、参加料、ユニフォーム代を助成。

*特筆事項：グレード1の国際試合のため、各選手は1人当たり3万円を自己負担する。但し、2009年PABF大会メンバーに限り、自己負担金を免除する。

(3) 代表強化プログラム (1,525千円)

2010年度の代表選手および2011年度代表候補登録を申し込んだプレイヤーに、強化プロジェクト対象7競技会／特別講習会の参加費を助成、遠方からの参加者の交通費・宿泊費助成を行うほか、選考試合の開催・選考、各講習会への講師派遣を行う。

- (4) 海外競技会への参加助成 (100千円)
ユース会友が国際経験を積むために海外の競技会へ参加を希望した場合、参加料などを助成。
- (5) 世界大学ブリッジ選手権 (989千円)
ブリッジのユニバーシアード大会に28歳以下の学生、卒業後1年以内の社会人、現役大学生で構成される6名までの日本代表チームとNPC1名を派遣。
*特筆事項：グレード3の国際試合のため、各選手は1人当たり5万円を自己負担する。

ジュニア部会【支出：3,225千円／参加料収入予測 546千円】

「ジュニアくらぶ」システムを活用しながら、ジュニア層およびその保護者に対するブリッジの認知度・イメージ向上およびジュニアプレイヤーの数的・地理的基盤の拡大を図り、将来のブリッジ界を担うジュニアプレイヤーの育成をめざす活動を円滑に実施するための経費一式。

1. ジュニアくらぶ活動 (1,296千円)
[事業内容]
(1) ジュニア層向け普及広報活動全般の企画・運営
(2) ジュニアくらぶイベントの企画・運営 (ジュニア・ブリッジサロン、橋之介道場、ジュニアキャンプなど)
(3) ジュニアくらぶ活動の運営・管理 (会員データ管理、スタンプラリー運営・管理など)
(4) ジュニア向け広報 (「ジュニアくらぶ通信」の制作・発行、会報ジュニアコーナー、チラシ、ウェブサイトジュニアページ制作、登録者向けメール配信など)
(5) ジュニア向け指導システム・ツールの企画・開発 (コントラクトブリッジへ移行するジュニアの指導法マニュアル、汎用教材の開発、指導者・普及協力者の開拓など)
2. ジュニア・ブリッジサロンの開催 (252千円)
ジュニア層と家族がミニブリッジを体験、練習できる機会を無料で提供し、家族で楽しみながら継続できる環境づくりをめざす。京葉BCを会場にするサロンでは、レッスントイプのイベント (有料) を試みる予定。
▶ 開催予定：横浜BC 4回、京葉地区6回 (京葉BC／八千代台自治会館)
3. 橋之介道場シリーズの開催 (655千円／参加料収入予測：78千円)
年齢と経験別に、四谷・横浜地区で原則月1回、日曜日の午前と午後を活用しての3つのプログラムのほか、長期休みを利用して2つの特別プログラムを開催。
(1) ミニひろば 17回 (四谷BC 9回、横浜BC 8回) ※参加料：200円／1名
ジュニアとその保護者 (親、祖父母) を対象にした体験教室 (ジュニアのみの参加も可)
通常のジュニア向け体験教室としての機能ももたせつつ、会員・会友が家族でブリッジを楽しめるきっかけを提供する場としても活用。同一グループで2回まで参加可とする。
(2) プレ道場 13回 (四谷BC 7回、横浜BC 6回) ※参加料：200円／1名
ミニブリッジをしばらく休んでいたジュニアや、午後開催のミニ道場に入る前の年少ジュニアの受け皿。
技術指導よりもプレイになれることや自発的に行動できるようになることに重点を置く。
(3) ミニ道場 20回 (四谷BC 12回、横浜BC 8回、それぞれ2回は午後スペシャル大会)
ジュニアに技術指導を行う場。 ※参加料：300円／1名
(4) 特別道場 四谷BCにて7月開催予定
(5) スペシャル大会 (ゲーム大会) ※参加料：500円／1名
ミニ道場参加者が日頃の練習の成果を試す場として四谷BCと横浜BCで計5回開催。
四谷BC：8月、12月、3月 横浜BC：年度内に2回開催
4. 「夏休みジュニアキャンプ2010」の開催 (604千円／参加料収入予測：352千円)

夏休みを利用して1泊2日のキャンプを開催。各地域のジュニアくらぶメンバー同士の交流促進の場、ブリッジの楽しさを深く知る場を提供し、ジュニアプレイヤーの定着を図る。また、ジュニア普及に関心のある会員・会友の見学・研修の場としても活用する。講師、ボランティアスタッフを含め計14名体制で臨む。

日程：2010年7月30日～31日（1泊2日）

場所：東京都八王子市高尾の森わくわくビレッジ

募集予定人数：32名（小4～中3のジュニアくらぶメンバー対象）

- ▶ 参加者からは参加費として11,000円（1泊2日4食）徴収
- ▶ ボランティアスタッフの往復交通費、宿泊費、食費は普及事業部が負担

5. ミニブリッジ大会「ハシノスケ杯」の開催（60千円／参加料収入予測：20千円）

ジュニア層にパートナーと組んで試合をする楽しさ、買った時のうれしさを覚えていく機会を提供するとともに、競技会に慣れ親しんでもらうことによりデュプリケートブリッジへの理解を深めてもらう場とする。現在道場シリーズを開催していないために大会参加の機会が少ない京葉地区で2回開催。

※参加料：子ども500円、大人1,000円

6. 「第3回ジュニア・ミニブリッジチーム選手権」の開催（95千円／参加料収入予測：40千円）

将来、全国から予選を勝ち抜いたチームが競う「全日本ジュニア・ミニブリッジチーム選手権」に発展させることをめざしている競技会。出場をめざすこと、参加することによってジュニア層によりブリッジを深く知ろうという気持ちを起こさせ、プレイヤーであることを誇らしく思うような格式の高いジュニア向け競技会としての位置付けで開催。

日程／会場：8月15日、四谷BC ※参加料：4,000円／チーム

- ▶ 1チーム4～6名でエントリー。予選を行い準決勝以上への進出チームを決定。
- ▶ サイドゲームで大人も参加可のオープンペア戦を併催。

7. ジュニアレッスン（仮称）（263千円／参加料収入予測：46千円） ※新規事業

ジュニアくらぶのリピーター層を対象に製作中の教材を活用したレッスン形式のイベントを開催。

ブリッジに対する知的好奇心の持続を後押しするとともに技術向上、コントラクトブリッジへの移行を促す。

- (1) 中級講座：教材はジュニア部会で製作中。1回につき1テーマを指導。

日程：9月～2月の毎月1回。四谷BC／横浜BCに於けるミニ道場に併催の形で実施予定。

- (2) 集中講座：コントラクトブリッジ（特にオークション）は1回約3時間のイベントでは扱いにくいことから、3コマ1セットで集中的に指導。

日程：検討中。四谷BC／横浜BC／京葉BCで開催予定。

広報部会 【22,802千円】

1. ブリッジ普及広報宣伝活動（10,049千円／広告料収入予測：2,115千円）

第2次5ヶ年計画の「戦略的な普及活動の推進」の一環として策定する新広報戦略のもとにブリッジの知名度を全国的にさらに向上させ、入会者増につなげるために、費用対効果の高い広報・広告アウトプット活動を展開する。

[事業内容]

- (1) 中・長期広報戦略（PR広報戦略/広告戦略）の策定をするための調査活動を実施。（マーケティングコンサルタントへの依頼も視野に入れる。）
- ▶ 今年度と2012年のPABFコンGRESS福岡大会後に「ブリッジの認知度」ウェブ調査を実施し、広報活動の成果を測定予定。
- (2) 「ブリッジと記憶力の関係（シニア世代向け）」、「教育とブリッジ」、「マインドスポーツ・ブリッジ」、「PABF福岡大会開催」、「イベント開催告知」、「ブリッジの総合紹介」をテーマにしたリリースの作成・配信および各媒体への積極的な広報営業活動の実施。
- (3) マインドスポーツ各団体、および他業界とのタイアップイベントを含め、一般社会・メディアの注目度の高いイベントの主催/参加、広報。
- (4) 媒体への広告掲載

- (5) 全国各BC主催・参加イベントの広報活動支援
- (6) 「全国の図書館へのブリッジ図書寄贈プロジェクト」第2弾の実施(50ヶ所予定)
※2010年度よりこれまでの「“ブリッジと脳”の研究」/「マインドスポーツ・他業界とのタイアップ活動広報」事業を本事業に統合し、一本化した。

2. ブリッジに関する出版物の刊行(9,857千円)

定款第5条(6)に定められた「コントラクトブリッジに関する出版物の発行」について、次の書籍を出版する。

- (1) 会報「JCBLブリテン」
年6回奇数月1日発行、各7,300部
- (2) 「JCBL HANDBOOK」
5月1日 7,500部発行

3. 広報ツールの製作(879千円)

ブリッジの普及・啓蒙活動の効果を高めるため多様に展開可能な広報ツールを企画製作し、質・量ともに充実した広報ツールが一般社会、全国のメディア、普及現場に行きわたるようにする。

[事業内容]

- (1) 初心者大会の賞品ほか、会員サービスとして活用が可能な廉価なグッズの製作。
- (2) 橋之介ファミリー・フレンズのイラスト画第2弾を各広報ツールに展開可能な素材として製作する。
- (3) オリジナル年賀状の製作と印刷
- (4) 広報パネルの製作
- (5) ブリッジ総合パンフレットの更新

4. ウェブサイトの運営(2,017千円)

毎月平均14万件のアクセスが示すように「JCBLの顔」と位置付け、最新トピックス、JCBL事業内容、競技会情報、各種申込みなど最新情報を広く迅速に公開し、会員サービスおよび初めてブリッジに接する人への普及・広報宣伝活動に資する。前ウェブサイトの全面更新から5年を経過したことから、機能的にもより使い勝手がよく、一層の広報宣伝効果が期待できてブリッジ愛好者の増加につながるウェブページへのリニューアルを視野に入れ、利用者へのウェブアンケート調査を実施して、より充実したウェブサイトの方向性を探る。調査結果を分析して必要と判断された場合は、リニューアルに向けて、業者の選定作業へと進む。

[事業内容]

- (1) ウェブサイト月次更新料
- (2) コンテンツ執筆料
- (3) 業者選定作業経費

その他普及事業部の目的を達成するための事業 【34,243千円】

普及事業部の目的を達成するため、本年度は以下の事業を実施する。

- (1) 各種講習会への会場の提供
- (2) その他目的達成に必要な経費
人件費、交通費、通信費、会議費等、普及・出版・広報活動に必要な経費。

以上

競技会事業部

I 事業の状況

1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認【収入 178,450 千円】

定款第5条(3)に定められた「コントラクトブリッジ競技会的主催と公認」については、本年度は以下の事業を実施する。

(1) 競技会的主催（収入 51,032 千円）

1) ナショナル（全国大会）競技会 [収入 31,540 千円]

競技会名	日 程	予定卓数
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 17、18 日	90
文部科学大臣杯関東予選	5 月 8、9、15、16 日	52
藤山杯	7 月 3、4 日	144
外務大臣杯	8 月 21、22 日	74
高松宮記念杯	9 月 18、19、20、25、26 日	108
全日本女子ペア選手権	10 月 23、24 日	173
高松宮妃記念杯	11 月 6、7 日	88
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 23 日	130
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 23 日	45
朝日新聞社杯	1 月 8、9、10 日	152

2) リジショナル競技会 [収入 17,808 千円]

柳谷杯	4 月 3、4 日	140
サントリー杯	4 月 29 日	120
日本航空杯	5 月 29、30 日	64
モンタルト杯	7 月 24、25 日	38
丸の内杯関東予選・決勝	8 月 28、29 日	9
夏季シニアペア	8 月 28 日	10
夏季シニアチーム	8 月 29 日	10
萩原杯	10 月 2、3 日	100
服部杯	12 月 7 日	180
春季リジショナル	3 月 19、20 日	30
渡辺杯	3 月 26、27 日	52

3) 日本リーグ [収入 3,360 千円]

1 部	前期 4、6 月、後期 12、1 月	16
2 部		24

4) 社会人リーグ [収入 324 千円]

社会人 IMP リーグ	11 月～3 月	18
-------------	----------	----

5) 参加料割引 [-2,000 千円]

(2) 競技会の公認（収入 124,758 千円）

1) ナショナル競技会 [収入 900 千円]

NRM 杯、任天堂杯並びに主催ナショナル競技会 予選を含む 20 競技会を公認		180
--	--	-----

2) リジショナル競技会 [収入 6,576 千円]

主催リジショナル競技会予選を含む 42 競技会を公認		1,500
----------------------------	--	-------

3) セクショナル競技会 [収入 92,952 千円]

約 1,900 競技会を公認		30,600
----------------	--	--------

4) ローカル競技会 [収入 2,830 千円]

約 720 競技会を公認		4,400
--------------	--	-------

5) IMP リーグ [収入 30,000 千円]

5 月～9 月		2,500
11 月～3 月		2,500

6) クラブ選手権 [収入 8,600 千円]
約 1,450 競技会を公認 12,300

7) 参加料割引 [-16,900 千円]

(3) ウィークリー収入 (2,660 千円)

(4) 競技会の主催と公認事業経費 (41,293 千円)

競技会の開催と公認及び定款第 5 条(4)に定められた「マスターポイント制度の確立と実施」のために必要な主な経費の内訳は以下のとおり：

人件費 [6,365 千円]	旅費交通費 [170 千円]
通信運搬費 [2,200 千円]	会場費 [15,825 千円]
消耗品費 [6,910 千円]	賞品費 [5,220 千円]
助成金 [4,603 千円]	

2. 競技会の水準向上のための講習会等の開催 (6,932 千円)

競技会の水準と環境の向上のためのディレクター講習会の開催、競技会運営ソフトの開発などについては、本年度は以下のような事業を実施する。

(1) ディレクター講習会 [192 千円]

- ・東京および地方でクラブ並びにセクショナルディレクター講習会を開催する。
- ・ディレクター講習会受講者向けに実地に教育する実習の場を設けディレクターの技術向上を図る。
- ・ディレクター勉強会を開催する。
- ・ディレクター講習会用教材、ディレクターマニュアル改訂、ディレクター向けウェブサイトの作成など教材、資料などの作成、整備を行う。

(2) 競技会運営システムの保守 [2,702 千円]

平成 14 年度から開発を開始し平成 21 年 12 月にバージョン 2.8 をリリースした競技会集計ソフト (JTOS) については、本年度は以下のような事業を実施する。

- ・開発用機材購入費 150 千円
- ・メンテナンス料 2,520 千円
- ・会議費 32 千円

(3) ブリッジライブラリー運営事業 [350 千円]

定款第 5 条(6)に定められた「コントラクトブリッジに関する出版物の発行および資料の収集と管理」について、本年度は次のような事業を行う。

- ・図書分類、キーワード設定経費 10 千円
- ・消耗品費 40 千円
- ・書籍購入費 150 千円
- ・書籍製本費 (雑誌の製本および破損図書の修理) 150 千円

(4) 公認クラブ支援 [162 千円]

地方クラブ会議出席に対する支援を行う。

- ・会議費および食事代 102 千円
- ・地方クラブ会議宿泊費補助 60 千円

(5) 競技委員会 [276 千円]

競技会における裁定、コンベンションの規程の制定、マスターポイント規則の管理など技術的事項の検討を行う。

(6) ルール委員会 [20 千円]

「デュプリケートブリッジの規則 2007 年版」の JCBL としての解釈を公表し、プレイヤーへの啓蒙を行う。

(7) センターサービス向上委員会 [1,004 千円]

ブリッジセンターおよび常設ブリッジクラブのゲーム環境全般についての検討およびサービス向上策の企画立案を行う。

- ・AED 購入費用 960 千円
- ・会議費 44 千円

(8) ナショナルディレクター養成 [782 千円]

ナショナルディレクターを養成し、将来連盟主催競技会のディレクターを担当させる。

- ・実地訓練費用 650 千円
- ・交通費助成 100 千円
- ・会議費 32 千円

3. その他競技会事業部の目的を達成するための事業【43,256 千円】

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料など

国際交流事業部

I 事業の状況

1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

定款第5条(5)に定める「コントラクトブリッジを通しての国際交流」については、本年度は以下の事業を実施する。

(1) 第47回太平洋アジアブリッジ連合(PABF)ハミルトン大会への代表派遣

[3,094千円]

会 期：平成22年5月21日～29日

会 場：ハミルトン、ニュージーランド

事業内容：1) オープン、ウィメンズおよびシニアの代表チーム派遣

2) 代表チームへの大会参加料の助成

3) PABF代表者会議へ役員派遣

(2) 世界選手権参加費助成 [300千円]

会 期：平成22年10月1日～10月16日

会 場：フィラデルフィア、アメリカ

事業内容：チーム戦で予選を通過した場合及びペア戦で決勝に残った場合は参加費を助成する。

(3) 第48回PABF選手権日本代表選抜試合 [878千円]

会 期：平成22年11月20、21日、12月11、12日

会 場：四谷ブリッジセンター

事業内容：1) 平成23年マレーシアで開催予定の第48回PABF選手権に参加するオープン、ウィメンズ各1チームを選抜

2) 選抜試合参加者への交通費と宿泊費の助成

3) 代表チームへの国内試合参加料、練習会費用の助成

(4) 代表チームユニフォーム助成 [560千円]

事業内容：第47回PABF選手権日本代表チームにユニフォームを支給する。

2. 第16回NECブリッジフェスティバルの開催 (24,096千円)

会 期：平成23年2月8日～13日

会 場：横浜国際平和会議場

事業内容：国外の一流チームを招待して日本人プレイヤーの技量向上と国際交流の促進を図る。

1) NEC杯：平成23年2月8日～12日

2) 横浜SRR&スイスチーム：平成23年2月11日～12日

3) 飛鳥杯：平成23年2月13日

4) BIGLOBEシリーズ：平成22年9月～12月

5) ミニブリッジ体験教室の開催 (普及事業部扱い)

(収入13,500千円)

3. PABF コングレス福岡大会開催準備作業 [5,430千円]

事業内容：2012年8月に福岡で開催予定のPABF コングレスの準備作業

4. その他国際交流事業の目的を達成するための事業

本年度は、国際交流事業の目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施する。

(1) 世界同時大会への参加

平成22年6月4日および5日に開催が予定される世界同時大会開催に参加協力

(2) PABF同時大会への参加

平成22年11月～平成23年4月まで毎月第1金曜日／土曜日に開催が予定されているPABF同時大会開催に参加協力

(3) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

1) A C B Lとの提携の継続・強化：A C B L競技会を会報で紹介

2) P A B F加盟国競技会の開催情報の提供

3) W B F加盟国の競技会開催情報の提供

4) J C B Lホームページを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連ホームページから情報を収集し、会員に提供する。

(4) その他目的達成に必要な経費[2,660千円]

交通費、通信費、会議費等の国際交流事業に必要な経費

2010年度九州支部事業活動計画

(2010年4月1日～2011年3月31日)

(社) 日本コントラクトブリッジ連盟九州支部

支部長 緒方 世喜子

2010年度の課題は、新理事会新体制の下、福岡委員会アピール（3項目）の方針を踏まえながら、第7回PABFコンgress福岡大会の成功に向けて、新たな出発をすることにあります。福岡委員会アピールの骨子は、①「国際親善・文化交流の進展と地域活性化に資するPABF大会」を目指すとともに、コンgress開催をブリッジ普及の絶好の機会と捉え②学校教育・社会教育・生涯教育へのブリッジ普及活動の推進③大学や企業へのブリッジクラブや同好会の設立に努力する - の3点です。アピールの内容は、九州支部にとりまして、九州地区のブリッジ普及活動を推進していく上で、越えなければならないハードルです。連盟本部のご指導を受けながら、実現に向けて努力をしていく所存です。

具体的な普及活動としては、官民一体となって組織された「PABF2012」福岡委員会の期待に応えるべく、より市民に親しまれるブリッジ団体を目指しながら、「大人と子供が一緒に遊ぶ、楽しいブリッジ」の普及のため、広報活動を多彩に展開し、社会教育、地域、各種団体、企業等への働きかけを行い、ブリッジ愛好者の増大に努め、コントラクトブリッジ競技人口の拡大を目指します。

また、九州で初めて開催されるPABFコンgressで九州チームの活躍を願いたいところです。そのためには、魅力ある競技会の開催に努め、切磋琢磨による既存プレイヤーの技術向上を図る必要があります。前年度はチーム戦が行われる「山笠リジョナル・テレビ西日本杯」に韓国チームを招待し、国際交流化に努め、大きな関心呼びました。PABFコンgressの成功に向けても、同大会の国際交流化は有意義です。今年度もアジアに開かれた福岡の地理的な条件を生かして、ブリッジの福岡をアピールしていく所存です。

九州に存在しない、ユースチームや実業団チームの育成も課題です。大学や企業に働きかけ、積極的にクラブや同好会づくりを目指します。PABFコンgressに出場できる若手プレイヤーの育成につながることを願っています。その実現には、連盟本部のご支援および九州在住のブリッジプレイヤーの協力、意識改革が欠かせません。

福岡ブリッジプラザとの連携強化は喫緊の課題です。支部とプラザ幹事会で構成する運営委員会の充実を期しながら、同プラザの健全かつ安定的な経営に寄与してまいります。

同時に九州支部は、福岡ブリッジプラザのためだけに存在するわけではありません。支部設立の趣旨を念頭に置きながら、事業活動を展開してまいります。また「PABF2012」福岡委員会の事務局を預かっており、PABFコンgress福岡大会に向けた支部事務局体制の充実・強化は当面の課題です。九州支部にとりまして、2011年度は、厳しいハードルが待ち構える節目の年になりますが、このハードルを乗り越えるために、九州支部は理事会・プレイヤー一体となって努力してまいります。連盟本部のさらなるご支援・ご協力をお願いします。

九州支部事業活動の主な項目

- 1、九州リジョナル・西日本新聞社杯、山笠リジョナル・テレビ西日本杯（7月）主催
- 2、第7回PABFコンGRESS福岡大会開催に伴う活動
 - (1)「PABF2012」福岡委員会の活動支援と広報展開（事務局設置）
 - (2)同委員会組織内に設置する小委員会（または幹事会）との一体協力
 - (2) PABF コンGRESS参加チームの育成（特定大学・企業へのアプローチ）
 - (3) 山笠 TNC 杯への外国チームの招待（前年度は韓国チーム5チーム招待）
- 3、市民向けブリッジ普及活動の支援体制づくり
 - (1) 福岡ブリッジプラザ展開のコントラクトブリッジ普及講座およびコントラクトブリッジインストラクター養成講座への支援
 - (2) 高齢者および学童を対象とする支部主催ミニブリッジインストラクター養成講座の開催（修了者は地方会員になり、支部活動の支援者として養成）
 - (3) 公民館職員を対象にしたブリッジ普及活動ほか
- 4、ブリッジ普及活動（一日体験会、講習会、出前講座の展開）
 - (1) 社会教育、学校教育、生涯教育分野での普及活動
（当面は公民館を中心にしたシニア、女性層への普及活動）
 - (2) 民間カルチャーセンターとの連携によるコントラクトブリッジの普及事業
- 5、ミニブリッジ大会「緒方杯の開催」
- 6、ブリッジ普及（PABF コンGRESSへの支援活動を含む）に賛同する法人賛助会員の拡大および特別協賛法人の発掘
（賛助会員および特別協賛法人には福岡ブリッジプラザ利用券を配布）
- 7、支部広報活動の展開
 - (1) 支部会報編集委員会の設立及び会報発行（年間2～3回）
 - (2) メディア・市政だより等への働きかけ
 - (3) 福岡ブリッジプラザ発行広報誌（又は機関紙）の発行支援

以上

福岡ブリッジプラザ2010年度事業活動計画

(2010年4月1日～2011年3月31日)

2010年度は、2012年度にプラザの収支バランスを取るという目標に向け、従来からの活動を継続していく。具体的には入門講習者の獲得に一層努力すると共に、魅力ある試合を計画し、競技会参加者を増加させる。

さらに、前年度に果たせなかったプラザの組織的な運営については、2010年度中にプラザ総会を開催し、必要な規約・組織を確立し、運営活動に必要な各委員会を立ち上げていきたい。

普及については、2010年度も、従来の新人発掘としての体験教室を9月末と3月末に開催し、入門講習会を4月及び10月から、それぞれ週1回ずつ計24回開催する。そのためのPR方法としてはリビング誌の広告を核にし、従来から効果が確認されている知人の紹介という方法を更に徹底していく。

これまでに入門講習会を終えた新人をプラザに定着させるためにサロンと初級者向けのウィークリーゲームを更に充実して行く。例えば入門コースを終えた人に対しては入門レベルアップ講習会、あるいは初級レベルアップ講習会を、更にコンベンションや2オーバーワンを学びたい人に対しては中級レベルアップ講習会を実施する。

IMPリーグは夏と冬の2回、火曜、金曜、土日及び新人の4リーグを実施したい。セクショナルの開催回数は増やし、参加しやすいイーブンチャンスチーム戦などを計画して行く。

また、ウィークリーの一部をローカルに昇格させ、参加意欲を刺激する。

[主な事項]

1.無料体験教室

9月の体験教室 参加 30名

3月の体験教室 参加 30名

2.入門講習会

4月～9月の入門講習会 15名受講

10月～3月の入門講習会 15名受講

3.外部入門講習会(最終的にはブリッジを目指している)

西高宮公民館他

4.サロン

月曜～金曜 延べ 1,800名

5.レベルアップ講習会

入門レベルアップ(6ヶ月経過) 年間延べ 200名

初級レベルアップ(12ヶ月経過) 年間延べ 200名

中級レベルアップ(18ヶ月経過) 年間延べ 200名

中級(上級を目指す) 年間延べ 200名

6.ウィークリーゲーム

月曜午後 平均 3 テーブル 延べ 450 名
火曜午後 平均 6 テーブル 延べ 900 名
水曜午後 平均 3 テーブル 延べ 600 名

7.ローカル

土日ローカル 月 2 回 平均 3 テーブル 延べ 360 名
火曜ローカル 月 1 回 平均 4 テーブル 延べ 200 名
金曜ローカル 月 1 回 平均 5 テーブル 延べ 240 名

8.IMP リーグ

新人リーグ 4 チーム×2
火曜リーグ 4 チーム×2 長崎、広島 1 チーム
金曜リーグ 5 チーム×2
土日リーグ 5 チーム×2 長崎、熊本、広島 1 チーム

9.セクショナル

イーブンチャンス 8 回
ハンディキャップペア 2 回
新人セクショナル 1 回
その他 9 回

10.ナショナル(リジョナル)予選

文部科学大臣杯 2×2 テーブル
外務大臣杯 4 テーブル
高松宮妃記念杯 4 テーブル
柳谷杯 5 テーブル
玉川高島屋 SC 杯 2 テーブル
全日本女子ペア 5 テーブル